

難民支援 NGO “Dream for Children” 2010 年度活動報告書



目次

ご挨拶	2
現在のチベット、ビルマの状況	3
2010年度の活動	5
2010年度会計	9

ご挨拶

難民支援 NGO “Dream for Children”は 2010 年 6 月に設立、チベットとビルマの難民を支援する NGO として活動を開始しました。チベットとビルマは直接の関係こそ薄いものの、①本国で市民が政府から弾圧を受けている、②人々が難民となり、隣国でコミュニティを形成している、③民衆の大半が仏教徒であり、政府への平和的な抗議活動が行われている、④本国の情報統制が厳しく、実態が世界に伝わりにくい、という共通点があります。

主な活動として、今発生している難民への短期的支援、難民をなくしていくための長期的支援を行っています。短期的支援は、現地での物資・教育支援、長期的支援は現地での難民の状況の調査、日本国内での啓発活動です。

2010 年度は、チベット難民とビルマ難民の絆を深めるべく、現地での活動に重点を置いて活動してまいりました。

最近、この絆を実感する出来事がありました。東日本大震災です。チベット難民は日本の被災者のために般若心境を 10 万回唱えてくれました。また、ビルマ難民は普段は使うことのない非常用のろうそくに灯をともし祈ってくれました。遠く離れていても、互いに支えあって生きているのだと実感しました。

2011 年度は現地での活動に加え、現地の状況を日本の皆様により身近に感じていただくために、日本国内での啓発活動を充実させていきたいと考えています。

まだまだ駆け出しの NGO で色々と至らぬ点多いとは存じますが、今度とも変わらぬご支援をいただけますと幸いです。

代表 亀田浩史

現在のチベット、ビルマの状況

【チベット】

2008年、北京五輪を前にしてチベット人の抗議活動が起きたことは記憶に新しいと思います。その後も、チベット人に対する弾圧は続いており、それに対するチベット人の抗議活動も続いています。特に、宗教弾圧が激しく、チベット人の宗教上のリーダーであるダライ・ラマ14世の写真を所持しているだけでも逮捕されてしまいます。

2008年以降の特徴として、芸術家・作家・実業家をはじめとする影響力のあるチベット人の不当逮捕が相次いでいます。現在、約7千人のチベット人が刑務所に捕われていると推定されます。刑務所内の拷問もやむことを知らず、瀕死の状態になるまで拷問され、釈放後すぐに亡くなるという事例が2010年も報告されています。

2011年3月には、中国政府が外国人のチベット自治区への旅行を禁じるなど統制を強めています。同月、20歳のチベット人が、中国政府へ抗議の焼身自殺を遂げ、それに続いてチベット人のデモが起きるなど、予断を許さない状況が続いています。

このようなチベット本土の状況から逃れようと、亡命を試みるチベット人は数知れません。彼らの多くはネパール経由でインドを目指します。しかし、近年、ネパールが中国と連携を深め、亡命チベット人を拘束することが増えています。2008年以前は、年間4千人ほどが亡命していましたが、それ以降の亡命者は年間千人以下にまで減っています。亡命は命懸けですが、現状では、亡命後は平和な暮らしを送れていると思います。

2011年3月に、亡命チベット人のリーダーであるダライ・ラマ14世が行政権を次期首相に譲ると発表しました。しかし、次期首相最有力候補を中国政府が「テロリスト」と名指しで非難するなど、中国とチベットの関係は緊迫しています。



インドのチベット寺院で平和を願って毎日灯されているろうそく

【ビルマ】

2010年11月、民主化運動の指導者であるアウンサンスーチーが釈放され、2011年3月には文民の新政府が誕生し、ビルマは民主化の道を進んでいるように見えます。しかし、この政府を設立するための総選挙は、アウンサンスーチーなどの民主化運動指導者は排除されるなど、著しく公平性を欠くものでした。結局、テインセイン新大統領を含む議員の多くは軍人が占めることとなり、軍事政権は事実上続いています。これまで独裁政治を続けてきたタンシュエ将軍も陰から糸を引くとの見方が強いです。

また、2011年11月からビルマ東部のカレン州でビルマ政府軍とカレン軍の戦闘が激化しています。一時は2万人がタイへ逃れ、今なお1万人がタイで身を潜めています。戦闘では地雷も使われ、一般市民が犠牲になることも増えています。

亡命先のタイの状況もよくありません。近年、タイ政府は、タイに逃れてきたビルマ人への難民認定を拒否しています。難民認定されない人々は不法滞在の身となり、職にありつけない、行動範囲を制限されるなど、不安定な暮らしを強いられています。

タイに逃れても生活が安定しない人々の中には、国連が推奨する第三国定住制度を使って第三国を目指す人々がいます。この4年間で6万人以上が第三国定住でタイを離れていますが、難民キャンプの人口はほぼ変わっていません。ビルマからの流入も止まらないということです。

日本は昨年、アジアではじめて第三国定住制度を使い、タイで暮らすビルマの少数民族カレン人を受け入れました。日本とビルマ難民の関係はとても深いものになってきていると言えます。

現在、ビルマ本国、亡命先のタイの状況は悪く、状況を注視していく必要があります。



タイにあるゴミ山。ここで暮らすビルマ難民がいる。「自由があるから本国よりいい」とのこと。

2010 年度の活動

	国内の活動	現地の活動
6月	Dream for Children 設立 講演会（名古屋）	
7月	講演会（名古屋） 書籍「タイ・ビルマ国境の難民 診療所」発売	チベット本土、インドのチベッ ト難民の街での調査。チベット 難民への英語教育。
8月		
9月		
10月	アジア保健研修所オープンハウ ス出展（日進）	
11月	講演会（大阪、広島、名古屋） 書籍「暗闇に差した光」発売	
12月	講演会（名古屋、四日市） 世界人権パレード参加 国際交流フェスティバル出展 （津）	タイ・ビルマ国境での調査。ビ ルマ難民への英語教育。
1月	講演会（岐阜）	
2月	講演会（名古屋）	
3月	講演会（岐阜、名古屋） NPO フェスタなごや出展（名古 屋）	

国内の活動

国内では難民問題の啓発活動に重点を置いています。

【書籍】

2010年度は以下の2冊の書籍を世に送り出すことができました。

- ・ 副代表松田薫訳「タイ・ビルマ国境の難民診療所」
ビルマ難民に無償で医療を提供するタイのクリニックの話です。
- ・ 代表亀田浩史訳「暗闇に差した光」
チベットの自由を求めた若き尼僧の話です。

【講演会、展示会】

2010年度は11回の講演会と、4回の展示会への出展を行いました。講演会では現地で行った難民へのインタビューを交えながら、ホットな情報を提供しています。2011年度は講演会参加者の91%の方に、「非常に満足」、「満足」とご回答いただきました。

◆これまでの講演会のご感想

- 遠い昔のことでもなく、遠い国でもない場所で起こっていることに深く考えさせられました。
- 日本人として何ができるのか、今後少しずつでも考えていけたらと思います。
- 監獄はアウシュビッツそのものだった。以前、中国がチベットに行っている拷問の事実を知った時、恐ろしくて目を背けていたが、やはり許しておいてはいけないと思った。
- 今日はバイトで疲れていたので早く帰ろうと思ったけれど、ふんばって当日参加してよかったです。また忘れかけていた感覚に出会うことができた気がします。世界を変えるには自分から力を尽くしていかなければならない。命懸けで行動に移す人もいるのに恥ずかしくなる。これからの生き方を考えさせられました。
- 自分の中で色々考えることがあり、やりたいことも湧いてきました。ありがとうございました。
- 講演会で聞いた内容も日々の生活に追われる中で、忘れていってしまいます。しかし、伝えていく大切さを再認識しました。今後も応援できればと思います。頑張ってください。
- 現地の人の実際の声は非常に心に突き刺さります。講演の中にそういったものが取り上げられており、よりリアルに世界で今も起こっていることなのだと感じました。

【ブログ】

現地のメディアのニュースのうち日本のメディアが取り上げない情報をメインに提供しています。チベット、ビルマニュースとも日本で最速、最大の情報発信地となりつつあります。

現地の活動

【インド】

世界でチベット難民が最も多く暮らす街インドのダラムサラで支援を行っています。

〔物資支援〕

文具、衣類、英語に翻訳した日本語の絵本を亡命後間もない子供たちが暮らす Tibetan Children's Village へお届けしました。

〔教育支援〕

Tibetan Children's Village をはじめとして、子供への教育はインドでは整いつつあります。しかし、大人になってから亡命した人が、英語が話せず困っているという現状があります。インドで生活していくには英語が必須です。このような状況から、大人向けに英語教室を行っている LIT と提携して、英語教育を行ってきました。14 時～16 時の必須の授業だけではなかなか英語力の向上が見込めないため、時間の許す限り、個別指導も行っています。

〔取材〕

難民の方への聞き取り調査を行っています。中国警察に銃撃された人、家族を不当に逮捕された人、自身が逮捕されて拷問を受けた人などへのインタビューを行いました。内容は、付録をご参照ください。



チベット難民の学校 LIT。みな非常に真剣である。

【タイ】

ビルマ難民が押し寄せ「リトル・ビルマ」とも呼ばれるタイのメーソットを拠点に活動をしています。

[物資支援]

文具をビルマ難民の子供が通う学校 Farm House へお届けしました。

[教育支援]

ここでも、インド同様、英語教育を主に行っています。ここでは、子供にも大人にも英語教育が必要ですが、今はできる範囲で子供たちを対象として9時から15時まで英語教育をしています。

この子供たちの多くは難民認定を受けていません。将来、ビルマへ戻れるのは一番よいのですが、タイで暮らす、あるいは第三国へ移住する可能性が高いです。このような状況のため、英語教育の重要性は高いです。

[取材]

難民に無償で医療を提供するメータオ・クリニックの設立者シンシア・マウン、不当に逮捕され投獄された人などへの聞き取り調査を行っています。内容は付録をご参照ください。



ビルマ難民の学校 Farm House。大部分の子供が難民認定を受けられない不法滞在者。

2010 年度会計

単位 [円]

収入	
事業収入	490,603
会費収入	165,000
寄付(一般寄付)	55,900
寄付(現地支援寄付)	32,556
計	744,059
支出	
啓発事業費	135,849
海外事業費	9,504
現地への寄付	654,946
旅費・交通費	162,983
人件費	1,000
広告費	21,465
印刷費	2,948
送料	32,300
計	1,020,995
次年度繰越	▲ 276,936